

研究テーマ：単語を覚えるための指導の工夫

所属 香我美町立香我美中学校

氏名 小松紀美

R G J H 7

1. 研究の背景

担当している学年の生徒は、明るく素直で英語を話すことがとても好きであるように感じられる。一方で、書くことや読むことが苦手な生徒もあり、英語の学習に対して自信がなく投げやりな態度も時々見られる。彼らに自信を持たせ学習意欲を高めるためには、まず単語の発音や意味やつづりを確実に習得できるような指導を工夫する必要があるのではないかと考えた。

2. リサーチ・クエスション

「自主的に単語を覚えるためにはどのように指導すればよいか。」

3. 予備調査

(1) 授業観察の結果

英語で話すことにはとても積極的で、習得した英文を使って場面に応じて話そうとする姿勢が見られる。文法的な説明が長くなると学習意欲が低下するが、丁寧にノートを取ることができる。また練習問題などもTTを生かして一人一人に説明をすると素直に取り組むことができる。

(2) アンケートの結果

単語を覚えることに関する質問が多かったせいか、「英語を学習する上で困っていることは何か」という質問には、単語の覚え方に対する質問も見られた。

(3) 英語力を示すデータ

各テストの結果から、読むこと・書くことが苦手であると考えられる。

(4) 参考文献

池谷裕二『脳の仕組みと科学的勉強法』ライオン社

望月享子『集中力養成法』ライオン社

4. 仮説の設定

仮説1 文を組み立てる単語（発音、つづり、意味）を確実に定着させれば、読むこと・書くことに対する自信につながるのではないか。

仮説2 授業の中で単語を覚えるための指導を工夫すれば、自主的な学習につながり、単語を覚える力が向上するのではないか。

仮説3 アルファベット（音）→単語（つづり、発音、意味、品詞）→文（文型＜主語＋動詞＞）を系統的に指導すれば、読む力や書く力がつくのではないか。

5. 計画の実践

(1) アルファベットのつづり字と音との関係について、機会あるごとに指導する。

(2) 新出単語の練習をするときには、一人ずつ個別に発音させる。

(3) 毎時間の始めに単語（5問）テスト（新出単語・予告あり）を行う。

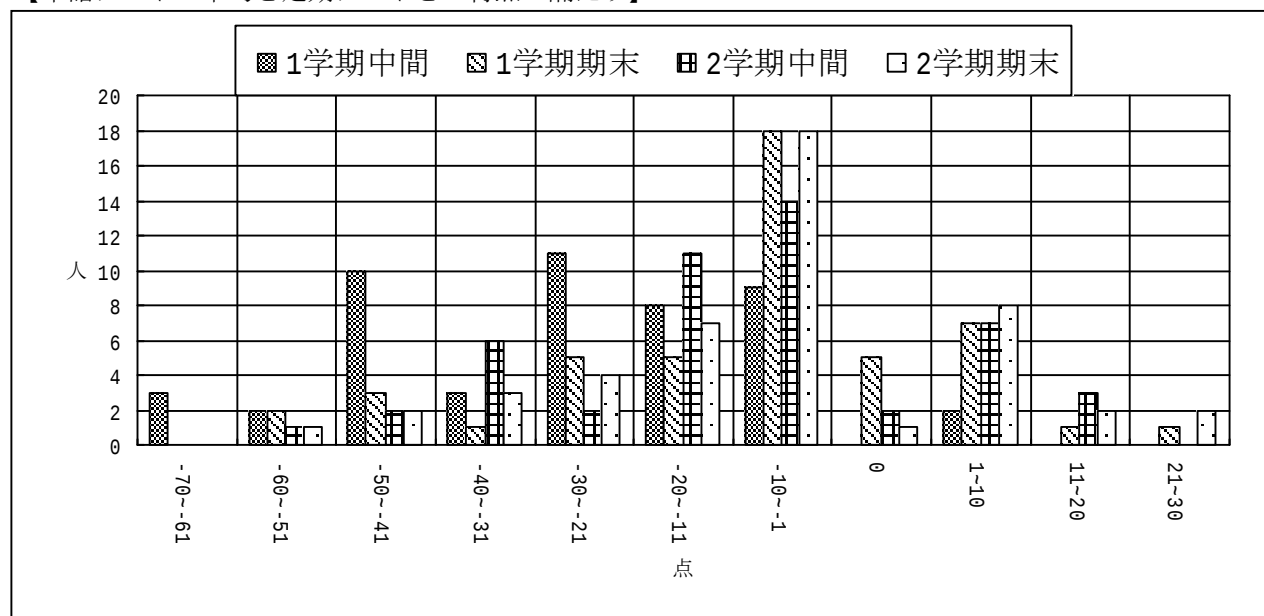
(4) 新出単語の発音指導は1度きりにならないように、できる限り繰り返し指導する。

(5) 新出単語の練習を、毎日1ページ家庭学習として練習させる。

(6) 質問しやすい雰囲気を作る。

6. 実践の結果

【単語テストの平均と定期テストとの得点の隔たり】



- ・単語テストの平均点から定期テストの得点を引きその差をグラフにしたものである。±20 点の範囲内に占める割合は、1 学期中間テストでは 39.5%、1 学期期末テストでは 75%、2 学期中間テストでは 77%、2 学期期末テストでは 75%である。

7. 結果の検証

(1) 単語のつづり字と音との関係、意味、品詞を繰り返し指導していく中で、単語を覚えることに対して大きく分けると 2 つのパターンが生じてきた。

①授業中の指導や宿題などの過程を経て、新出単語を完全にまたはほぼ完全に覚える生徒。

②宿題はしてくるが単語テストには書けない生徒。

①の生徒はさらに 2 つのパターンに分かれる。

(ア) 単語テストの結果がそのまま、定期テストの結果として反映されている。

(イ) 単語テストは満点に近いが、定期テストなどにその結果が反映されていない。

②の生徒も 2 つのパターンに分かれる。

(ウ) 宿題は機械的に書いて提出するだけで、時にはテスト以外の単語を適当に書いている。

(エ) 覚えたいが覚えられない、覚え方が分からない。

①の(イ)の生徒については、個人的に聞き取りを行った結果、単語は覚えられるが教科書の英文を十分に音読することができないことが分かった。

②の(エ)については、対象の生徒の 1 人からの質問により、アルファベットのつづり字と音の関係、発音の仕方、カタカナ表記と実際の発音方法の違いを理解できていないことが分かった。

8. 成果と今後の課題

単語を覚えれば書くことや読むことができるようになるのではないかと考え、単語の発音や意味の確認をすることをひたすら繰り返してきたが、特に目立った成果は得られなかった。ただ、繰り返し指導する中で、生徒自身が小さなつまずきに気づき、具体的につまずいている事柄について質問があり、それに私が回答することによって、自主的に学習しようとする生徒がでてきたことは成果であったと思う。

一方的に与えるだけの授業ではなく、生徒と指導者のインタラクティブな関係が、生徒自身の自主性と意欲を高め、指導者の意識をも高めることができるのだと、「わからない」と言ってくれた生徒から教えられたように思う。

生徒一人ひとり興味関心の度合いやつまずきは様々なので、限られた時間の中でどこまで生徒のつまずきに対応できるかが課題である。